

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2021年 司教年頭書簡を受けて

第10回 大丈夫、希望を捨てないで

「大変だ、大変だ。だめだ、だめだ。困った、困った」と多くの人が叫んでいます。でも、「大丈夫、大丈夫だ。良くなる。頑張れ」と、一老人が言います。彼は、第二次世界大戦という最も困難な時代を体験し、生き延びてきたのです。

私たちには福音がある。信仰がある。愛がある。神様が共にいてくださる。

そんな私たちでも、不幸に遭遇すると、すぐ不信を起こし、不平不満を言い、神様を「裁きの座」に据えようとする。でも、被造物に破壊をもたらし、人々の生活を不安に陥れているのは、外でもない当の本人。「現代理性」の「おごり」なのです。人間のおごりが、「神無き不気味な物質文明という怪物」を造り出したのです。その「おごり」と「欲望」、「エゴ」が、人と世界を殺す現代的武器を造り上げてしまったのです。それは、人間の「いのち」を救うため、自らの命を献げるために来られたキリストとは大違い。十字架を眺めてください。それは、苦しむ者の愛の勝利の輝きなのです。そこに答えがあります。

パラリンピックが終わりました。そこで私たちは、自らの十字架を物ともせず、雄々しく戦い、



国立競技場



2020東京パラリンピック
車いすバスケットボール女子選手
西陣教会の柳本あまねさん

勝利を叫ぶ障がい者の姿を見たのです。彼らは弱音など吐いていません。彼らは戦い、勝利を納めようと、血と汗を流すのです。

疫病や飢餓や戦争は、人々を、自然を傷つけ、破壊していきます。でも人間は、自然と共に立ち上がり、もっと素晴らしい新しい世界を創造しようとしてきたのです。老人は、その「歴史」を体験してきました。

一老人は言います。「大丈夫。希望を持とう。ただし、富や、物質や、力や、エゴを偶像にしてはならない」と。「神を取り戻せ。神に立ち還れ」と。

京都教区司祭 村上透磨



乾隆神父のイタリア留学記(7)

京都教区司祭 大塚乾隆

三か月に一度の「イタリア留学記」、毎回テーマがないのでその時に感じたことを書いていますが、今回は頂いた質問にお答えする形式で書いてみます。最初に断っておきますが、「あくまでも個人の感想」ということと、何やかんや言いますが、「私はイタリアという国とイタリア人が大好き」ですので誤解なきよう、よろしく願います。

本題に入る前に言いたいことがあります。「日本とイタリア」と比べるの、やめませんか。というのは、こちらでもよく日本のことを聞かれます。でも、私になじみのある京都という町や、いわゆる「京都人」を、日本や日本人に一般化



することはできません。同じように、「イタリア」と一括りにすることはとても難しいのです。それは、イタリアという国自体の歴史はとても浅いので、彼らは自分が「ローマ人」だとか「ミラノ人」、「フィレンツェ人」などのように、「イタリア人」という括りの前に都市に愛着をもっています。ですから、「イタリア人は」と括って答えることが非常に難しいのです。こういった前提を踏まえて、頂いた質問に、実際に住んでいて感じたことと、こちらの人に聞いたことを合わせて答えていきたいと思えます。

① イタリア人は時間にルーズだと聞いたことがありますが、集合時間に遅れるのは本当に当たり前なのですか。

よく言われることですが、「北と南」で違います。この夏に訪れたミラノ（北部・写真）はかなり時間に正確です。ただ、南に行くにつれて、緩やかになっていきます。ただ、「集合時間に遅れる」という表現ですが、日本だと1分でも遅れたら、とやかく



言われまじし、場合によってはそれが新聞記事になることもあります。でもこちらでは、例えばコンサートが21時に始まると案内があれば、それは21時15分ぐらいに始まれば「時間通り」となりますから、「遅れた」ことにはなりません。日本人の感覚からすれば「厳守」かもしれませんが、こちらの感覚では「目安」と言っても良いかもしれません。

② 電車やバスは時刻表通りに来るのですか。

これも「北と南」で違います。私の体験で言えば、「ミラノとナポリ」で違います。日本でも、バスは時刻表通りにこないことがありますね。大きな駅の案内表示には、「○分遅れ」と案内が出ます。「あくまでも電車は遅れるものだ」と思っておいた方が心にゆとりが生じます。

③ ミサは定時に始まりますか。

定時に始まるように努力なさっています。ただ、既に書いていますが、定時に始まったら良いかなぐらいの感覚です。いずれにせよ、会衆はゾロゾロと集まりますので、むしろ定時に始めない方が良いのかもしれない。

④ 朝昼晩、どんなものを食べますか。

難しい質問です。私が住んでいるのは、ポルトガルの司教団の運営する寮ですから、イタリアにいながらもポルトガル

の雰囲気です。一番の違いは、イタリアだと一皿目にパスタ料理を食べることが多いですが、ポルトガルではスープが出てきます。



イタリア人の朝食は、甘いパンとカプチーノというのが定番かもしれません。少し前に日本でもはやりだした「マリトツォ」はローマの定番ですから、朝食にマリトツォとカプチーノを頂いている人もいます。でも、それ以外の都市でマリトツォを見ることはあまりありません。例えばナポリでは、「スフォリアテッラ」という焼き菓子が有名です。

⑤日本との大きな違いは何でしょうか。

色んなことが違いすぎて答えられません。二年住んでいても、まだまだ違いに驚く毎日です。前の質問とも関連しますが、「時間」についての考え方が違うのかもかもしれません（どっちが良いとか悪いとかではなく）。日本は「一分一秒」に厳しすぎるかもしれません。でもそれが良さを生み出すこともあります。こちらでは、「時間が過ぎていく」ことは認識していても、場合によりますが、そこまですることは考えていないと言っている良い

かもしれません。さらに、イタリアでは、イタリアと比べて日本はどうなんだろうと聞かれますし、逆に日本と比べてイタリアはどうなんだろうと私たちは疑問を抱きます。これは自然なことですし、良い悪いではありません。例えば、イタリアで「街にくつ教会があるか、街の人口は何人か」とよく聞かれます。こちらでは、一つ一つの街がある程度はつきり分かれていて、旅行をした方はわかると思いますが、街を出て次の街に行くとき、はっきりその違いがわかります。ですから、「街に教会が何個」と数えられます。一方日本はどうでしょうか。統計上ほとんどの人が洗礼を受けている国では、「街の人口」を聞くことが信者数を考える上で役に立ちますが、日本の場合はどうでしょう。私は京都市の人口や統計上の京都教区の信徒数も答えることはできません。でも、比較対象が違うので、あまり意味をもちません。ローマで週末に行っている教会は、その街の人口が一万五千人ほど

ですから、冗談で主任神父様に「あなたは、人口規模なら京都教区の司教と同じだ」と言



ですから、冗談で主任神父様に「あなたは、人口規模なら京都教区の司教と同じだ」と言

いますが、当然ながら範囲となる面積は全然違います。

⑥イタリアの住みやすさ、住みにくさはどんなことですか。

住みやすさ——日本のように細かすぎないところ。完璧主義を求めすぎないところ。良く言えばみんなが大らかです。たとえ失敗しても「bravo」と褒めてくれますから、前向きに頑張ろうという気になります。今のところ、「どうしてできないの」と言われたことも聞いたことありません。「ちょっとずつ頑張ろう」とか「ここが良かった」と声をかけてもらえるのは、外国人の私にとってとても励みになっています。

住みにくさ——日本と比べれば、色々効率的悪いことがあります。でも、皆がそういう中で生きているので、それで困ることはありません。「こんなもんだ」と思えば、住みやすくなります。

私がイタリアに留学している間、このシリーズが続くと思います。そこで、これから皆さまからの質問にお答えしたいと思いますので、素朴な疑問でも何でも結構です。どうぞこちら

kennyuotsuka@kyoto.catholic.jp までメールを頂ければ、可能な限り教区時報上でそれにお答えしたいと思います。

教会学校研修会

「カトリック教会における、

信仰教育とは何か？」

8月28日(土)開催

報告 信仰教育委員会 奥埜さと子

コロナ禍のなか、教会学校研修会は昨年度に引き続きオンラインで行われました。

教区内の16小教区から33名が、PCやスマホ、タブレットの画面で顔を合わせました。今年は、教会学校リーダーや子どもの信仰教育に関わっている方たちだけでなく、小教区やブロックの成人の信徒養成に関わっている方たちにも参加を呼びかけました。

研修会のテーマは「カトリック教会における、信仰教育とは何か？」で、大塚喜直司教が講師としてお話しくださり、その後、参加者から質問をいただきました。司教は、この研修会のために作成された資料を画面で共有しながら、具体例をあげて説明されました。

司教は今回のテーマをⅠ「カトリック教会の信仰教育の特徴」、Ⅱ「信仰教育のプログラムの立て方」の大きく2つに分けて説明されました。

Ⅰの信仰教育の特徴として、次の10項目をあげて説明されました。①信仰にお

ける成長は神の望み、②信仰の生涯養成、③信仰教育を受ける「権利」、④信仰教育を行う「責任」、⑤信仰教育の本質、全人的・共同体的、⑥キリスト教信仰の全人的3つの側面、⑦キリスト教信仰の共同体的性格と補完性、⑧全人的・共同体的「信仰教育は、家庭・小教区の役割が必須である」、⑨信仰教育における広義の「家庭」、⑩小教区の「総合的信仰教育」の役割。

Ⅱの信仰教育のプログラムの立て方として、①信仰の生きる喜び、②信仰教育の2つの要素「信仰の学び」と「生きた実践」、③キリスト者のプロフィール「人生を選び取っていく人間像」、④教皇フランシスコが、回勅『ラウダート・シ』で呼びかけるエコロジカルな回心、⑤日本での子どもの信仰教育の特徴、⑥教皇フランシスコの『愛のよろこび』にみる「司牧上のいづくしみの原則」の6項目をあげて説明されました。

Ⅰでは、まず、「信仰は神から与えられる賜物であり、信仰を育み成長させてくださるのは神ご自身である」ということに立ち返り、「わたしたち一人ひとりが、自己養成の責任者である」ことに気づかされました。「日本の学校教育では教育を受ける権利と受けさせる義務があります、信仰教育には権利はあるが義務はなく、その代わりに教会の大人には、教会に来る子どもたちを保護者と連

帯して信仰教育を行う責任がある」と話され、信仰教育についての教会共同体としての役割を考えさせられました。

Ⅱでは、信仰は、掟や教義を中心とした捉え方ではなく、「ともに喜びをもつて生きること」とした捉え方が大切だとする前提から、信仰教育には成長段階に応じて「信仰の学び」と「生きた実践」という2つの要素があることを学びました。

家庭はもちろん、教会共同体の役割について、「その生活(活動)のあらゆる側面が、信仰教育である」ので、あらゆる活動は、「ここで教えているものは何か」をいつも意識して企画し、行うことの重要性を説かれました。また、「典礼」(特にミサ)は、最も効果的な信仰教育の場であることを強調されました。

信仰は、「神からの恵みであり、人が神からの愛の呼びかけに応えること」であることを思い起こすとき、信仰を伝えることの大切さ(責任)を感じるとともに、その喜びと恵みも大きいことをあらためて考え、学んだ研修会でした。





こんにちは神父さん



ホセ 神父

所属 **グアダルペ宣教会**
生年 **1975年**
叙階 **2006年**

私はメキシコのグアダルペ宣教会のゴンザレス・マルケス・ホセ・アルフレド神父です。あまりにも長い名前ですので「ホセ」と呼んでいただければ嬉しいです。

簡単な自己紹介をします。1975年12月6日に、メキシコのハリスコ州にあるサン・ファン・デ・ロス・ラゴス市で生まれました。家族は両親合わせ9人です。兄弟姉妹は7人ですが、3番目で長男です。

初めて日本に来たのは2000年3月22日です。しばらく日本語を勉強してから2002年4月に東京カトリック神学院に入り、4年間勉強をしました。そして司祭叙階のためにメキシコに戻り、2006年9月23日に叙階されました。

神父になって、まずメキシコで4年間召命活動のために働いてから、再び日本に戻りました。2010年4月に仙台教区に派遣され、2016年4月まで福音宣教活動をし、その後、福音宣教の研究のためにイタリアに派遣されました。2020年11月に日本に戻って来て京都教区に派遣され、2021年7月から三重県南部ブロックで働くことになりました。

京都教区の皆さんと心を合わせて、神の国のために一緒に働きたいと思っていますので、これからよろしくお願ひいたします。



京都カトリック青年センターの運営委員をしています、新田理紗子です。久々の「あんでな」への寄稿です。

運営委員として、青年センターに関わって長くなりましたが、昨今の感染症事情。こんなに長くセンターとしての活動が出来ないのは初めてです。個人としては、感染症対策はしつつも、それ以前と余り変わらぬ日々。今まで教会を通して沢山の方々と繋がってきたのに、こんなにも分断されてしまったのはとても悲しいですね。早くミサが再開して、青年センターにみんなで集まったり、各小教区の方とお会いしたり、全国の青年たちとワイワイできる日が来ればいいなあと思う今日この頃です。

そんなセンターは、11月に毎年恒例のYESを開催します。オンラインではありませんが、沢山の青年と出会えるよう、お祈りください。

運営委員/唐崎教会 **新田理紗子**

YES…Y= “Youth”、E= “Enjoy, Encounter, Exchange, Etc…”、S= “Space” の略
京都教区の青年が、1年に1度、気楽に集まろう！ ということで計画されました。
2002年から行われている秋の恒例行事です。

つながりネットワーク 課めようプロジェクト

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を超える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！

大塚司教の11月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。



11月のお知らせ

教 区

広報委員会

※ 2022年1月号の原稿締切り日は11月22日㊥です。

京都カトリック青年センター

京都教区青年の集いYES 2021 (Zoom)

テーマ「すべてのいのちを守るため」
～コロナ時代を生きる信仰～

日 時：13日㊥ 14:00～16:00

対 象：京都教区の18～35歳までの青年
(高校生不可・修道者は年齢不問)

詳細はQRコードから

HPをご覧ください。

問合せ：京都カトリック

青年センター

メール/seinen.kyoto@gmail.com



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ
障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎 (たけざき)
裕子さんまでお申込みください。
Tel・Fax/079 (431) 8601

諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：14日㊥ 14:00 洛星宗教研究館
27日㊥ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂
現在活動中止中。再開時、団員には連絡
します。

問合せ：075(951)4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：11日㊥、25日㊥ 10:30

河原町教会 2階楽廊

問合せ：075(701)3303 岡田久美

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：14日㊥ 15:30～17:30

対 象：15～35歳の方 どなたでも

問合せ：090(8207)1831 瀧野正三郎

心のともしば ラジオ番組案内

(全国34局で放送)

KBS京都 ㊥～㊤ 朝 5:55

㊥ 朝 5:15

ラジオ関西 ㊥～㊤ 朝 5:00

㊥ 朝 6:05

11月のテーマ「沈黙」

第16回通常シノドス(世界代表司教会議)に向けた「歩み」について

2023年開催テーマ ともに歩む教会のため～交わり、参加、そして宣教

◆開幕式

今回のシノドスは、準備期間自身が「ともに歩む」期間として開幕式が行われました。
ローマ：2021年10月9～10日 京都教区：2021年10月17日

◆京都教区シノドス担当司祭

シノドスの終了まで、京都教区のシノドス担当司祭に以下の司祭が任命されました。
鶴山進栄師(京都教区窓口)、一場 修師、小立花 忠師、クエバス・フェリペ師

◆「シノドス」とは

「ともに歩む」という意味のギリシア語で、一定時に会合する司教たちの集会のことです。教皇と司教たちとの関係を深め、信仰および倫理の擁護と向上、規律の遵守と強化のための助言をもって教皇を補佐するために開かれます。またそこでは、世界における教会の活動に関する諸問題が研究されます。シノドスは、第二バチカン公会議の体験によって生まれた積極的な精神を、生き生きと保つために、1965年教皇パウロ六世が設置したものです。通常シノドスは1967年の第1回からほぼ2～4年ごとに開かれています。

今回のシノドスの特徴は、2021年10月から2023年10月にかけて、地方教会から始まり、地域の集いを経て、そして普遍教会へと、三段階に分けた、教会全体の一つの大きな「歩み」として行われるということです。

